

市長が行く

地域医療と3次救急



茂原市長 田中豊彦



私の市長就任以来、地域の医療問題に全力で取り組んできておりますが、依然としてこの地域は医療過疎の状態が続いていると言えます。特に産科や小児科は危機的と言ってもいいような状況です。公立長生病院でも色々な手段を使って医師の獲得に努力していますが、なかなか獲得に繋がっていないのが現実です。その原因の一つとして、よく

言われるのが医師を輩出する医育大学（以下「医大」）が約620万人の人口を抱える千葉県に千葉大学しかないからだとも言われています。たとえば約504万人の福岡県には4校、四国では約400万人の人口に対して4校の医大があります。そう考えると千葉県には5、6校あってもいいことになり、1校では圧倒的にマンパワーが足りません。

そのようなことから、私は、県立でも私立でもどちらでもいいから、医大を2つくらい新たに創設すべき

ではないかと思っており、千葉県に対し医大誘致の要望を行っているところであります。このような状況の中、この4月から東金市に3次救急、いわゆる重篤な患者の救急医療を行う救命救急センターを併設した東千葉メディカルセンター（以下「東千葉MC」）がオープンします。この病院は、県立東金病院の撤退に伴いその機能を引き継ぐことから、千葉県の肝いりで東金市と九十九里町とで地方独立行政法人を立上げ、開業するものです。今ここにきて、開業前から赤字が予想されるため、千葉県と東千葉MCを運営する東金市と九十九里町とで、3次救急分として近隣の市町村にも負担してくれないかとの申し入れがきています。

私としては、3次救急を行う病院がこの圏域にはなく、必要なことは十分承知してはいるのですが、基本的に3次救急は国と県とが責任を持って運営すべきものであること、ここで赤字になるからといって負担をすることは、今まで3次救急を引き

受けてくれた病院にも同様の対応をしなければならなくなること、なおかつ、これ以上の負担は茂原市としては出来ないこと等を話し、お断りしています。

地域医療の向上を目指すなら、3次救急はとても大切なことなのですが、何度も言うように、国と県とで大きな医療ビジョンを立ち上げて、安心で安全な暮らしが出来るシステムを作ってもらいたいものです。

本当に納得できる医療ビジョンのためなら、どんな協力も惜しみません。

◆3次救急は

「原則全ての重篤な患者を24時間体制で必ず受け入れるもの」とされており、設立団体以外が3次救急を負担している市町村は全国どこにもありません。

また、法的にも独立行政法人が設立団体以外に負担を求めることは認められておらず、東千葉MCだけが他の市町村に負担を求めることは、法律違反にもなりかねないため、難しいと考えております。